



アプリケーション・コントロール 設定手順書



ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社

2014年8月 Rev-01

目次

はじめに	3
Application Control アクセス制御設定	4
アプリケーション単体のアクセス制御	4
カテゴリ毎のアクセス制御	8
Application Control のポリシーへの適用	9
Application Control を有効にしたポリシーのスケジュール	10
おわりに	12

2012年3月 初版

2014年8月 第二版

はじめに

この度はウォッチガード製品を選定していただきありがとうございます。

本書は、WatchGuard XTM が持つ強力な機能の一つである、アプリケーション・コントロールの設定方法を解説するものです。

本手順書は、Fireware XTM OS v11.5.1 をベースとしたものです。

Application Control アクセス制御設定

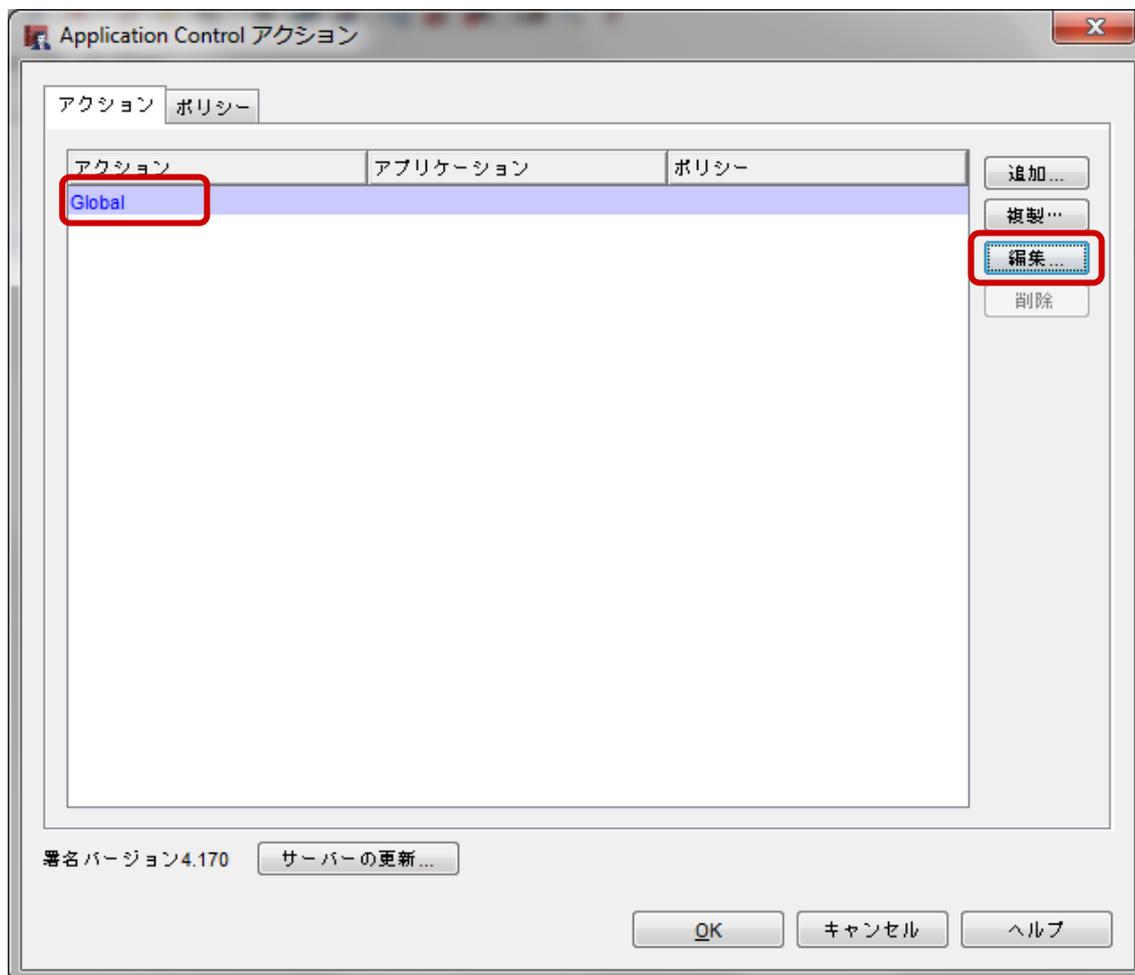
Application Control は先ず、アプリケーション (Web、P2P、IM など) 毎に許可・禁止設定をするための定義が必要となります (デフォルトは全て許可)。

定義が完了したら、各ポリシーに対して Application Control の有効/無効設定して頂きます。

尚、アプリケーションによって制御項目が異なるのでご注意ください。

アプリケーション単体のアクセス制御

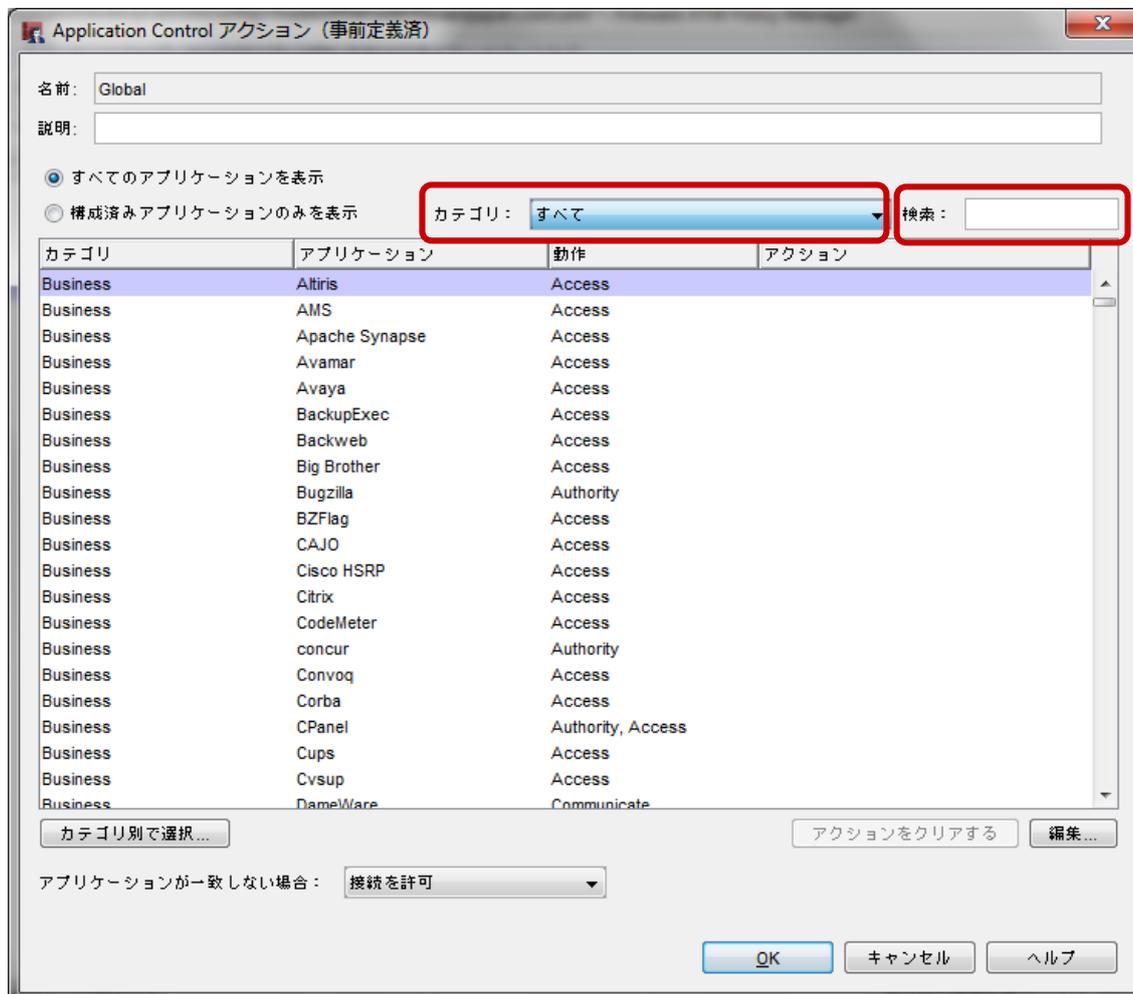
1. Policy Manager の[セキュリティサービス] ⇒ [Application Control] 画面を開きます。
2. 一覧にあるデフォルト(Global)を選択して画面右側にある“編集”で修正画面を開きます。



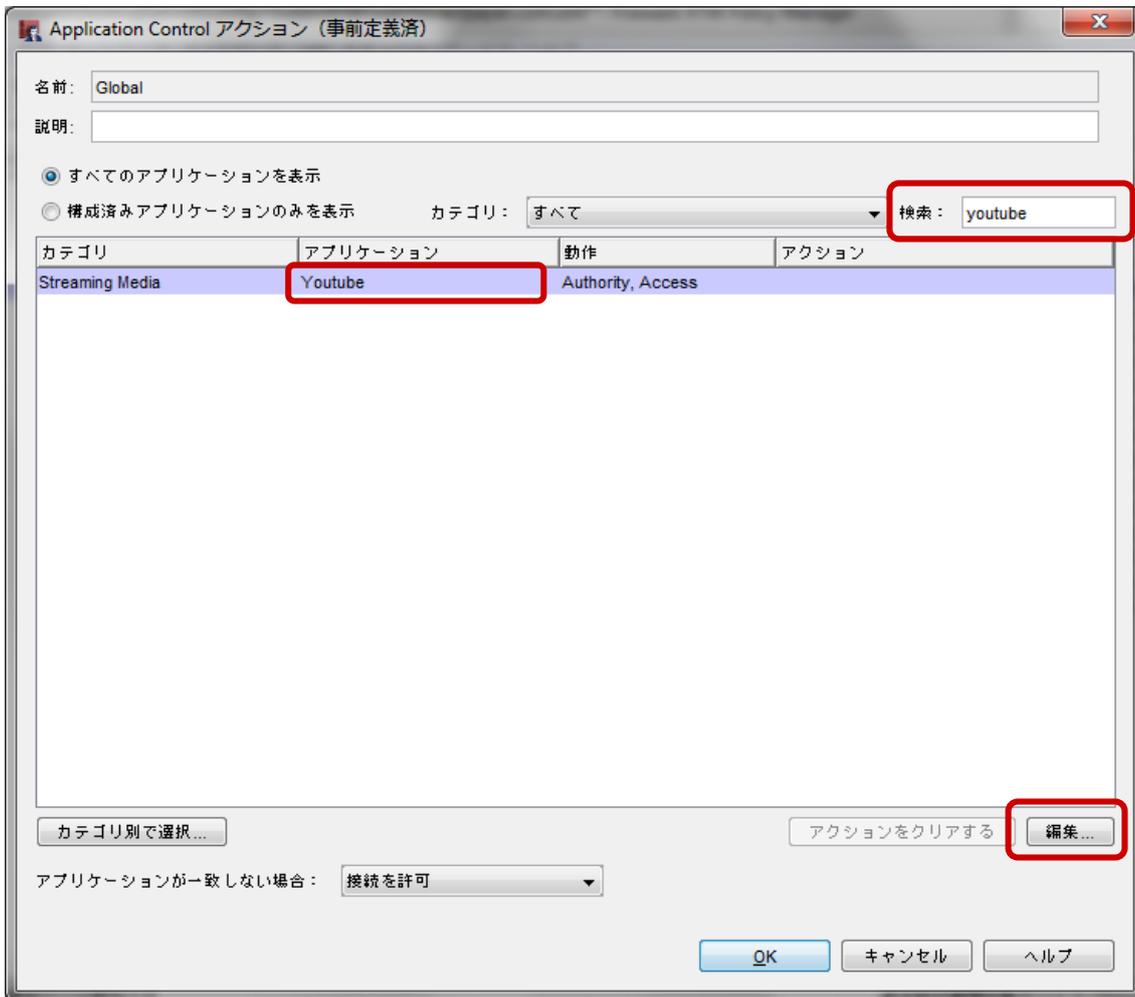
3. Application Control でサポートしているアプリケーション一覧が表示されます。

アクセス制御したいアプリケーションを探す方法としては、下記の 3 種類があります。

- スクロールダウンして探す
- カテゴリを選択して、カテゴリ内から探す
- 検索機能を使って検索する



4. 例として、“YouTube”を制御したい場合、検索機能を使って“Youtube”にて検索すると一覧に表示されます。一覧に表示された“Youtube”をダブルクリックまたは画面右下にある“編集”を選択することで詳細な制御項目画面が表示されます。



5. "Youtube"(例)は、2つの制御項目があります。"Access"(アクセス)と"Authority"(認証)の2項目があります。

全体をブロックしたい場合は下記の画面通りにしてください。



プルダウンメニューで"切断"を指定します。

"Authority"(認証)のみ禁止にしたい場合は、下記の画面通りにして下さい。

下記の通りにすることで、閲覧が可能になるが"Youtube"への動画投稿が禁止となります

(理由:YouTube はログイン認証をしないと動画投稿が出来ないため)。



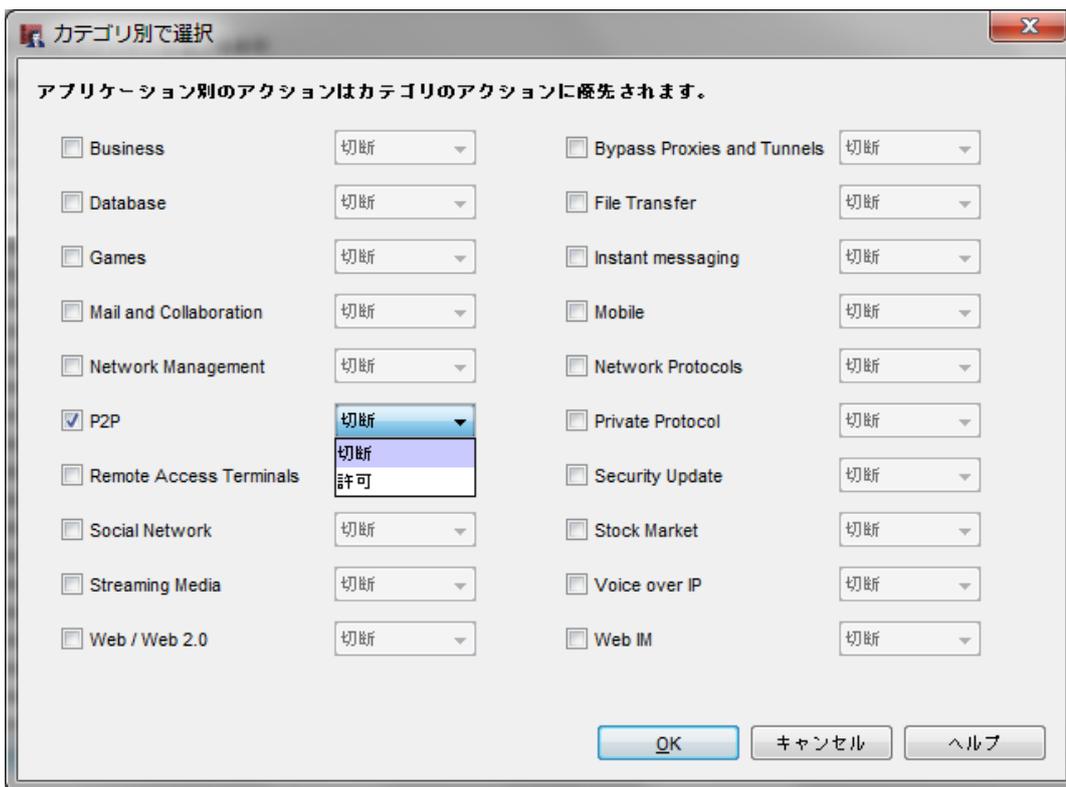
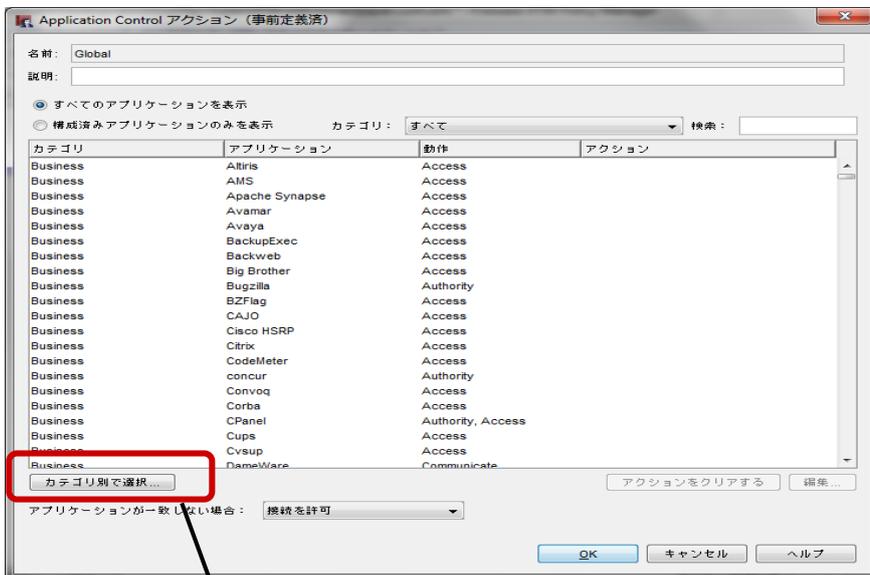
Authority(認証)を禁止にして Access(アクセス)を許可にします。

※制御項目はアプリケーションによる異なるのでご注意ください。

カテゴリ毎のアクセス制御

個別アプリケーション毎の制御ではなく、カテゴリ毎に大きい枠での制御も可能です。

カテゴリ別で選択 ボタンをクリックします。



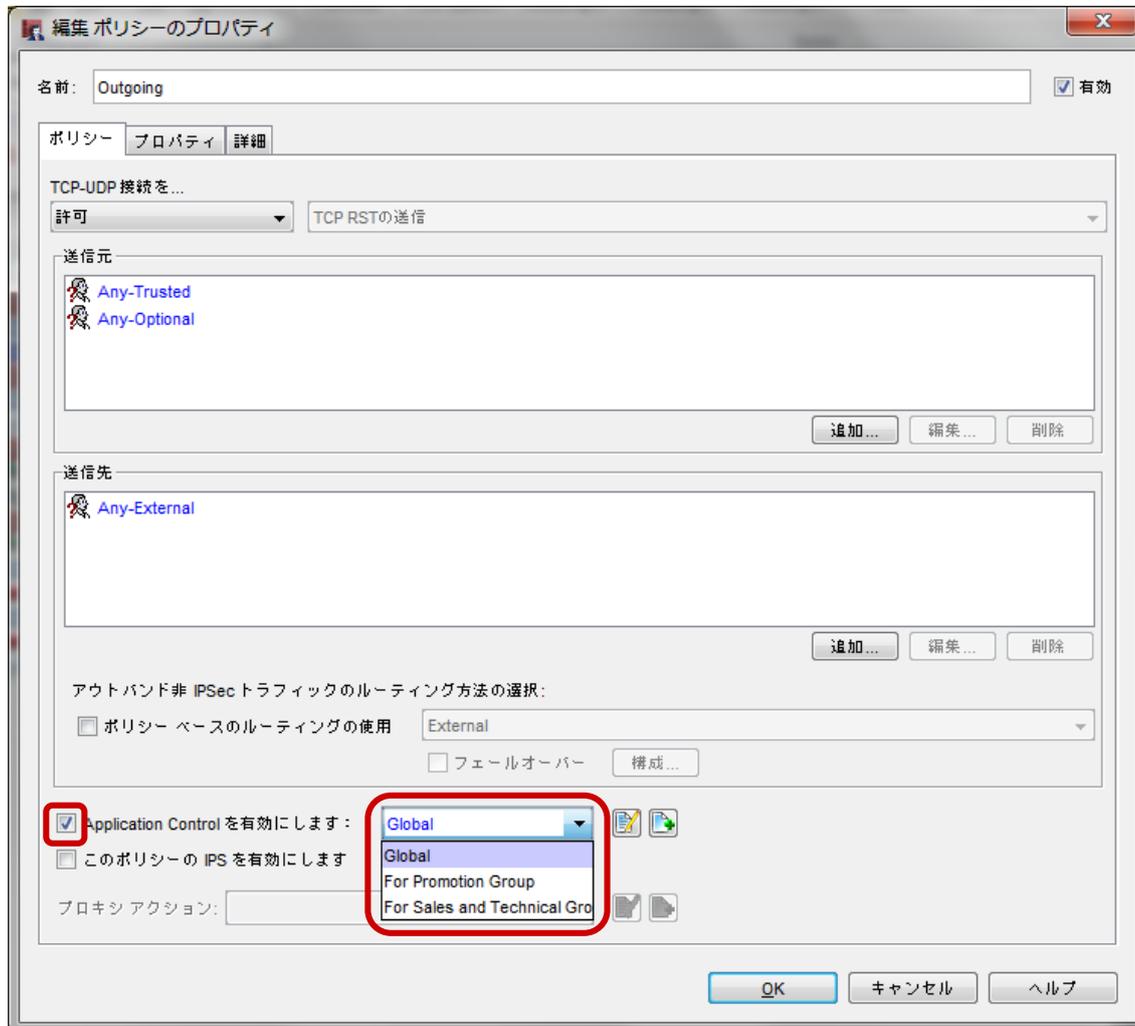
制御したいカテゴリにチェックを入れて、“切断”を指定することにより該当するカテゴリ内に含まれるアプリケーションを全てアクセス禁止にすることが可能です。

ただし、細かい制御はできません。カテゴリによる制御は許可か禁止のみとなります。細かい制御に関してはアプリケーション毎に設定して頂く必要があります。

Application Control のポリシーへの適用

最終的に各ポリシーに対して Application Control を有効にしなければアクセス制御はされません。当手順書では、“Outgoing”ルール(ポリシー)に対して Application Control を有効にする方法をお知らせします。

1. Policy Manager 上に登録されている“Outgoing”ルールのプロパティを開いてください。



Application Control で作成したルールをプルダウンメニューで選択します。ここで指定したルールがファイアウォールポリシーに対して適用されます。

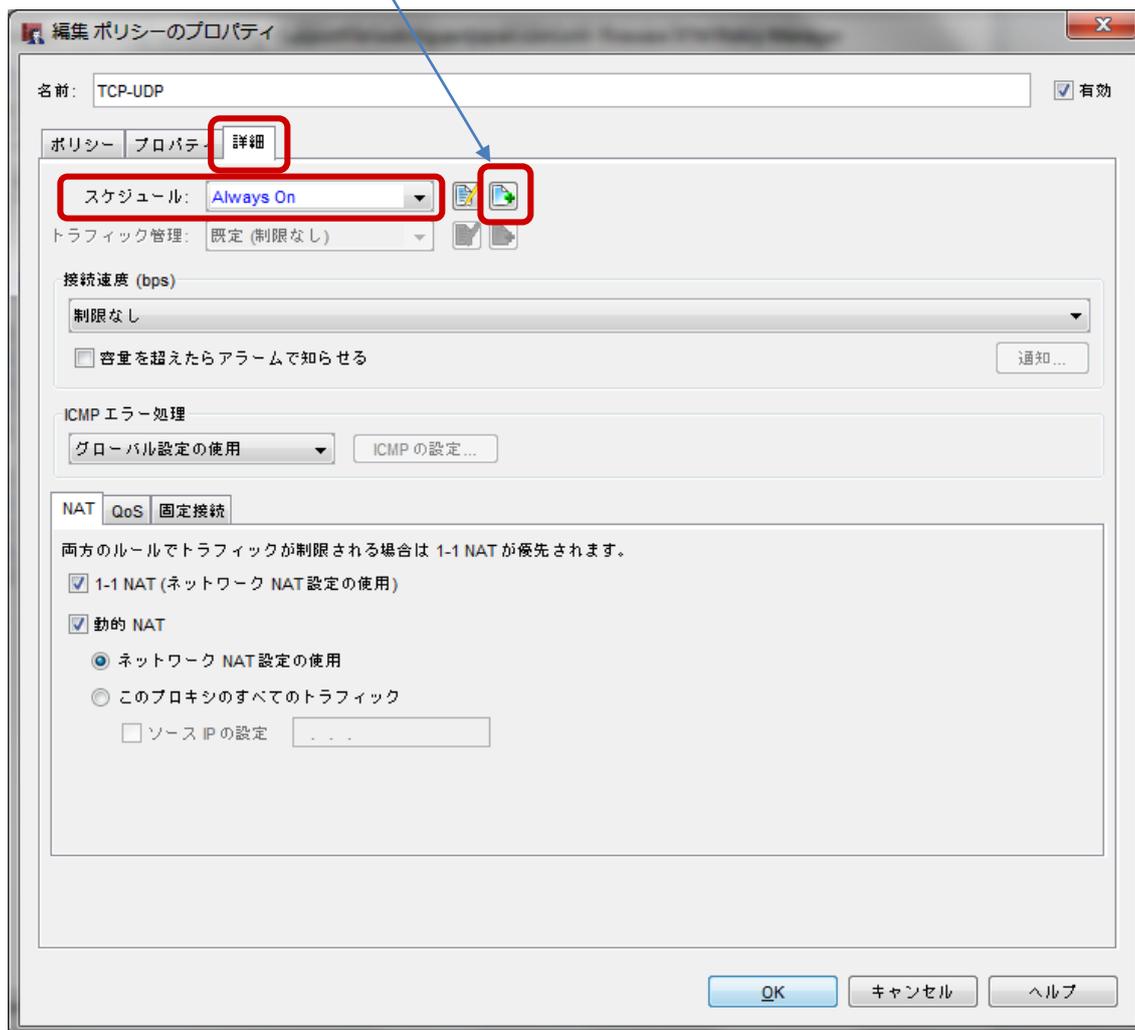
※ 送信元を限定することにより、送信元別(部署/PC 単位)に Application Control のルールを分けて適用することが可能です。

Application Control を有効にしたポリシーのスケジュール

スケジュールはポリシーのオプション機能です。ポリシーに対してスケジュール設定をすることで、Application Control が有効となっているポリシーを時間帯によって有効／無効にすることが可能です。

1. Policy Manager で Application Control が有効となっているポリシーをダブルクリックしてプロパティ画面を開きます。[詳細]タブを開いてください。

同画面に“スケジュール”の設定項目欄があり標準では“Always On(常に有効)”になっています。スケジュール設定をしたい場合には編集ボタンをクリックして下さい。



2. Application Control を有効にしたポリシーの有効時間を選択します。最小で 15 分単位、最大で 1 時間単位で指定が可能です。

複製 スケジュール

名前: For Application Control

説明:

時間	日	月	火	水	木	金	土
00:00							
01:00							
02:00							
03:00							
04:00							
05:00							
06:00							
07:00							
08:00							
09:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							

モード: 時間

: 稼働時間
 : 非稼働時間

OK キャンセル ヘルプ

おわりに

アプリケーション設定手順書をご活用いただき、ありがとうございます。

このガイドを通して、ウォッチガード製品により、アプリケーションの社内利用の制御がいかに容易か、実感していただけたと思います。

WatchGuard XTM が御社のセキュリティにお役に立てれば幸いです。